

## 第2回 山武市景観計画策定委員会 議事要旨

◆日 時：平成25年9月30日（月） 14時00分～16時20分

◆場 所：山武市役所新館第5会議室

◆次 第

1 開会

2 委員長あいさつ

3 委員紹介、事務局紹介

4 議事

(1) 山武市の景観特性・課題について

(2) 山武市の景観の目標・基本方針について

(3) 成東駅南側周辺地区街並み景観について

5 その他

6 閉会

◆出席委員

北原理雄委員長、猪野源治副委員長、中谷正人委員、福田順子委員、中村順子委員、  
行木静委員、稗田忠弘委員、石橋宏委員、小川千洋委員【欠席】廣口芳治委員

◆事務局

都市建設部：猪野部長、並木参事

都市整備課：土屋課長、織田主幹、並木係長、吉原主査補、若梅主任主事

昭和株式会社：新野、加藤、柴崎



◆議事

【要旨】

(1) 山武市の景観特性・課題について

第1回策定委員会意見及び、第1～4回の景観ワイワイ広場や景観アンケート等の意見を踏まえ、事務局で整理した「山武市の景観特性・課題」についての確認を行った。特に各委員から追加・変更等の意見は出なかった。

(2) 山武市の景観の目標・基本方針について

事務局で整理した「山武市の景観特性・課題」、市の各種上位計画等を踏まえ、各委員が考える、「山武市の景観目標・基本方針(山武市の景観として目指すべきこと)」について意見交換を行い、「山武市の自然について」や「人づくりが重要である」などの意見が挙げられた。

(3) 成東駅南側周辺地区街並み景観について

成東駅南側周辺地区で進めている計画について事務局より状況報告を行った後、確認・提案を含めた意見交換を行った。通りの名称やセットバック等についての質疑の他、「固めすぎないルールができれば良い」や「細かい運用システムを見据えたルールを作ることが重要」等の意見が出された。

【議事内容】

(2) 山武市の景観の目標・基本方針について

名前	意見内容
委員長	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 総合計画や都市計画マスタープランの中で景観がどう使われているのかという事と、これまで山武市として行ってきたアンケートやワイワイ広場、委員会の中でのご意見をまとめた内容を踏まえ、「景観の目標・基本方針」についての議事に移っていきたいと思う。山武市全体として、何を目指していくべきか委員の皆さんの知恵を出していただき、議論していただく。</li><li>・ しかし今日はどのくらいまで議論すれば良いのか。山武市全体として何を目指していくべきかというのを、キャッチフレーズを考えるのか、それとも今日はキャッチフレーズをつくる材料を皆さんに出してもらえばいいのか。</li></ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"><li>・ キャッチフレーズが出てくるまでが望ましいが何がポイントになるかなどのキーワードが出れば良い。</li></ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"><li>・ これは落とせないというものを挙げていただき、可能であればキャッチフレーズまで考えることとする。</li></ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前成東の大富小学校から、ヘリコプターで成東海岸まで行ったことがある。ちょうど田植えの時期で田んぼに水が張っており、成東・蓮沼・松尾は、こんなに田畑がたくさんあって水の中に浮いているようなまちなのだと強く思った。</li> <li>・一方で山は、緑ばかりで下が見えない。ということは言い方を変えると山は少し荒れているのではないかと思った。</li> <li>・成東の水田を見渡せる場所があれば、山武市ってこんなところなのだなとの見方が少し変わってくるような気がするため、できれば作っていただきたいと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見としては水田の素晴らしい眺望があるので、それをもっと活かしていきたい、できれば眺望の場が欲しいということであった。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前にも少し話したことがあるが、私の頭の中にある 50 年前の九十九里浜の原風景というのは素晴らしい。少しずつ荒れてきているからあまり感じないとは思いますが、それをどこまで回復するかが重要である。山武の森や九十九里海岸は、今のまま保全するのではなく、相当修復をしないと魅力のあるものになっていかないと思う。</li> <li>・しかしどこまでやるかという点で、何を目標にすれば山武市が自然豊かであると言えるのかを考えることが重要である。</li> <li>・田んぼについても、圃場整備がだいぶされて、綺麗な田んぼになったが、冬になると生き物が一匹もいないのは決して豊かなではないと思う。農業者が畦（あぜ）に除草剤をまいてしまうことについても、これはもう「なりわい」ではないと思っている。</li> <li>・みんなが自分の仕事に誇りを持ち、それがその景観の一部だということを自覚してくれたら良い。草をしっかり刈ってくれば綺麗な花も咲くし、鳥も虫も魚も住める環境になる。以前も話したが、蓮沼で冬水田んぼを始めたところがあり、渡り鳥の休憩地点になることを期待している。そういうものの復活というのがかなり大事だと思う。</li> <li>・50 年前の景観に戻せれば一番いいと思っているが、さすがにそこまでは無理だとしても、少なくともこれはやりたいという線引きをする必要があるのではないかと思う。また、山武の森を再生するには杉を使うしかない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小川委員のお話を聞いて、ある意味では最もだと思うと同時に、それは可能かなという思いもあった。田んぼの景観の美しさは本当におっしゃるとおりである。それを確認する場所というのは、見ているときには確かに素晴らしいかもしれないが、それをつくること自体が景観を壊してしまうのではないかという心配がある。私が住んでいる旧山武町でも展望台があるが、確かに素晴らしい景色の認識はできる。しかし森の中に突如としてあの建物が現れた時、果たして良いのかどうか。小川委員の言った趣旨は分かるが、私の感想としてはあまり好ましくなく、自然は自然のままに残しておくべきと思っている。その辺りはなかなか難しい問題だと思っている。具体的な対応策を考える必要がある。</li> <li>・自然を維持することや、昔の素晴らしい自然に戻せればという思いはある</li> </ul>

	<p>が、現実問題として実生活、経済との兼ね合いの中で、どこまでできるのかという問題が当然浮上してくると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、「景観」にしても、山武市は私どもにとって生活の場であるので普段見慣れている景色であるという認識と、外部からお見えになった人のその土地に対する捉え方や思いはかなり違うところがある。昨日、開催されたNPO主催の「森の健康診断」というイベントで、私は現場の人間としてお手伝いをさせていただいたが、色々聞いていると、外部からお見えになった人の自然に対する憧れは、私どもでは気づかないようなところがあると再認識した。ただ、そうはいても、それを維持していくことや、より良い自然を戻していくということは非常に難しいと改めて感じている。</li> <li>・稗田委員もおっしゃっていたが、私どもが関係する分野である山に関しては、やはり山を元気にするには、山の木がある程度売れる状態でないといけない。寂しい話ではあるが、それが私の結論となってしまう。様々な講義がされていることに加え、社会全体で自然に対する認識が、以前とは比べものにならないくらい深まってはいるが、では実際にどうしたらいいかということになると煮詰まってしまう。しかし昨日のイベントも意味がないというわけではなく、人の意識を再認識したというところで、それは良かったと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材を使って売って、経済のサイクルの中に入っていくことで、支えられるということである。</li> <li>・稗田委員が「生業（なりわい）」という言葉で表現されていたが、「景観」というのは「生業」で支えられると安定する。ただ昔の美しい景観を支えてきた「生業」と今の「生業」はずいぶん姿が変わってしまっているの、今の「生業」でどう支えて、守り、再生していくのかというのが大きな課題であり、どこでも悩んでいることだと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家はすぐ生活に関わってきてしまい、ただ綺麗にするだけでは収入は上がらないので、どうしても除草剤などを使ったりするのはやむを得ないことであると思っている。</li> <li>・まず山武市の原点は「人づくり」ではないかと思っている。</li> <li>・できれば市全体で、小・中学生を体力的に育てることもそうだが、精神的にも育てるような動きをしてもらえないだろうかということのを常に考えている。できたら子どもたちに地元に残って、山武市を今の状態よりももっと良くし、活発なものにしてもらえたらいいのではないかと思っている。今からその子達にいろいろな経験をしてもらい、その中で山を綺麗にするという認識を持ってもらい、景観を大切に思って、これから先少しでも良くなるように活動してもらえるのがいいのではないかと思う。それに合わせて、今は子どもたちに自然と携わってもらえる環境をつくっていったら良いと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの話で、山の話で財政的に困難があるとおっしゃっていたが、別の会で同じようなことを聞き、そこで私が提案したことがある。山武杉を活かすため、「伐る」「降ろす」「片づける」という作業を山武の人達ではなく、</li> </ul>

	<p>都市部の人達にイベントとしてやってもらうのはどうか。「一本いくら」という内容でやれば結構人も集まり、山も綺麗になってお金も集まるのではないか。そういったことは考えてはないのだろうか。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とにかく間伐を行わないと山が死んでしまい、将来的には非常に困ってしまふという事で、間伐材を受け入れるNPO法人が昨年からあり、間伐材を受け入れてくれるという事で、実際 20 人程の自分で伐って持って行って目方を量って、1 t 3,000 円~4,000 円ではあるが、非常にありがたいことである。このおかげで、ある程度は進展しているものの、結局お金の話になってしまう。実際やっても 1 日 3,000 円程で、経済的な面に特化して言えばとてもやっていけない。しかし「山はなんとかしなければならぬ」という思いを出す機会を作っていただいたことは大変良いことであり、助かっている。</li> <li>・問題はその間伐材が山積みになってくると、結局その使い道が見つからず、そのNPO法人も非常に困っている。今はとりあえずやってみて、どれくらい出来るかという段階であり、現在はペレットを作ったり、燃料として使ったりしているが、それだけではとてもはけ切れない。一部では発電所等の話もあるが、桁違いに経済的な負担が大きいので、もし将来的に行政と協力しながら出来るようになれば、良い対応にはなる。</li> <li>・小川委員がおっしゃったように外部から来て作業してもらうというのは非常に素晴らしいことであるが、現実問題、山仕事というのは危険が伴う。素人が簡単に出来ることではなく、我々でも大変な作業である。実際、草刈りなどの活動をやりたいという思いの人は意外と多いが、それを軌道に乗せたり、うまく回していくというのも難しい問題である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のままが本当は山武の土地には合うのではないかという思いがある。私たちが子どもの頃は、毎日近所の田んぼや小川で、ドジョウやエビ、カニ、魚を捕ったりという生活を送っていたが、今の子ども達はおそらくそんな経験もないし、今の状況じゃできないと思う。よく「里山」という言葉があるが、「里山」というのはどういう形のものなのか。また、私たちは月見の季節になると山に入って自分達でススキを取り、お月見の時にお供えをしていたが、今ではそういう習わしもない。そうした昔に返ったものを一回くらいでも子どもたちに経験させたいと思っている。</li> <li>・また、旧山武町で「虫送り」をやっていて、とても良い眺めであり、田んぼに火を燃しているいろいろな場所で綺麗な火が燃えるのをみんなで見ているのも良いと思う。またその下で、食べながらいろいろなことをやれるというような土地柄になったら良いと思う。自分にとってはそういった思い出を大事にしたい。今の子ども達はゲームやパソコンをやったりしているので暇がないと思うが、たまにはキャンプをしたりする中で、昔からの行事の何かをやれたらいい。私どもが生きているうちに教えなかったらできないこともたくさんある。5 月頃、田んぼにチラチラとたくさんの火が灯るドジョウ取りの良い風景があった。このように今ではなくなってきたことがたくさんあり、そういったものがだんだんと薄れてきてし</li> </ul>

	<p>まっているので、とにかく今のままをもう少し続けられて、年を取った我々に昔を思い出せるような景観づくりができれば良い。毎日生活している中でも、田んぼの美しさなどを見て、本当にいい土地だなといつでも思っている、今ある良いものを絶やさなくて、今の形を維持していけたら良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・景観やまちをつくっていくには、「人作り」が非常に大事になってくると思う。子どものうちから、見て覚えることをたくさんできたら、だんだん人の輪が大きくなるのではないかと思う。田んぼの美しさについては、緑色から黄金色になったりと、1年で移り変わりの景色が見られるが、こういった山武市の土地柄景観を維持できれば良いと思う。</li> <li>・私たちができることはたかが知れているが、農業や林業、商業、工業と一緒にできるような何かを少しずつでも見つけていきたいと思っている。</li> <li>・耕作放棄地や捨てられた田んぼがたくさんありもったいなく思っている。これらについて「利用したい」という思いを持った人が集まれる組織などができれば良いと思っている。また、いろんなところで「産地直売」をやっているが、これは自分達で1年間の作付けを決めて、生活を何とかしている。先ほど述べた耕作放棄地などを、産地直売する作物づくりの場として利用してどんどん作ってほしいという夢がある。そういった仕事をみんなやってみたい思いもある。何人かでやれば直売の組織というのは作れるはずである。</li> <li>・今の問題として、店を開けても生活できない店舗が多くシャッター街が多く見られる。そこに対して、自分たちの商売で出来るものがあればと思う。しかしなかなか賛同者が集まらないというのが苦労しているところである。金儲けの話ではなく、昔のような生活が懐かしいなと思って今の話をした次第である。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季折々の行事や遊びも景観を作る上で非常に大事なことであると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間まちづくり塾というのをここでやり、この町の良い所は、「風土」というのがあり、「風の人」＝外の人と「土の人」＝地元の人とが上手に混ざり合っているところかなと思いつつ、その時皆さんにいろいろ勉強していただいて、私自身も勉強になったという経験がある。</li> <li>・課題について見ると、「メンテナンスがされていない」「荒廃」「空き店舗」といった言葉がたくさん出てきている。結局メンテナンスをする人がいないという事は、今どのくらい立派なものを作っても、すぐダメになるという心配がものすごくある。</li> <li>・また、「小さな子どもの時から」という考えが出るのは全うだなとうかがっていた。では子ども達は今どうしているかということ、綺麗なことやカッコいいことが好きである。そのカッコよさの中に「スタイル」や「知識」が入っている。一番好きになるのは消防士で、それは火を消すというスタイルがカッコいいからである。例えば、農業でもシステマティックにやらないと1日の仕事が終わらないというのを見てみると、そういうのも本当はカッコいい。そういうところをなんとか子ども達に伝えてい</li> </ul>

	<p>けたら面白いのではないかと、これまでの話を聞いていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観や環境は未来の事であり、今作ったものが将来輝くかどうかと考慮して考えなくてはならない。そうすると、メンテナンスできない中で50年後残っているかということが、一番違和感を感じたところである。何をやってもダメかもしれないし、思いだけではできないということを思った。</li> <li>・ 皆さんのお話を伺っていると、農業や林業を含めて、自然がものすごくあるということがわかる。それはあるだけで十分であるが、先ほど間伐の話が出たように二次的自然というのは、人間の手が入らないとメンテナンスができないというものである。もしある程度の大きさになった時に、これは間伐した方がいいということが解れば、そんなに危険を伴わずに間伐できるような気もした。山武杉という立派な杉があるにも関わらず、やはり後継者がいないということで稗田委員も頑張っている。以前「30年物の山武杉をいくらで買いますか」と聞かれて、「20万円かな」と答えたら「すぐ売ってあげる」と言われたことがあり、実際には1,000円だった。30年経って1,000円という事は1年に30円ということなので、これではとてもじゃないが後継者は出てこないなと思ったのを覚えている。</li> <li>・ しかしせっかくある良いものを、何とか活かさないかという事で、生涯教育センターを大学でもやっている。子どもたちの夏休みの宿題で、溝腐病の山武杉を伐ってもらって、柱時計を子ども達につくらせた。その際に山武杉は一体どんなものなのか、どうして手に入ったのかというところで「育てていかなければ手に入らない」という話をしたら子どもなりに話を聞いてくれた。そういったところで、中村委員がおっしゃった子どもの教育というのはものすごく大切だなと感じた。未来のことを考えるのだが、今ある自然を使うとすれば、命の営みをこの都市に近いところできるということですごく良い所だと思っている。</li> <li>・ 食材が豊富であって、空気も良く、自然にも恵まれており、私はここに来るたびに命が蘇ったような気がする。そのような感じの景観ができたらいいなと思う。取り立てて、人工的に造ってはいないけれどもなんとなく整備されていて、人の手が入っていて子ども達も大人達も参加するようなことがあったらいいなと思う。</li> <li>・ ひとつ子どもたちの事について挙げると、食虫植物群落のボランティアの方達が、夏休みに食虫植物教室をやって、子ども達がいっぱい来ているのに、今子ども達が大人になって全然手伝っていないことにある学生が気づいた。ボランティアの人が、あれだけ子ども達を教育されているなら、それはその子ども達たちがボランティアになってやらないといけないのに、やっているのはお年寄りばかりである。やはり子どもがずっと継続してやっていくには何か仕組みが必要なのかなと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観を通じた次の世代というのが大きなキーワードになりそうである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨日の「森の健康診断」についてだが、一部始終動画でも配信されており、私はネットを見せていただいた。内容としては、猪野委員の山をお借りして、猪野委員を含めた、日本全国を歩いて回った専門家のご指導によって、</li> </ul>

これからどう再生していくべきなのか、あるいは今ある杉はどういう状態なのかということ、「健康診断」という形で、町の人たちが解りやすいような説明をしていただいて、自然に木はどのように育っていくのか、将来その育った木が山にどう影響を与えていくのかということを考えさせられるものとなっていた。参加者で実際に携わったことがない人たちは非常に感激していた。感想としては、実際に林業のお手伝いまではできなくとも、草刈くらいはできるかという印象を持たれた人や、関心をすごく持っているという人がおり、そういった今まで無知だった人が改めてそのような気持ちになられたという事は非常に素晴らしいことである。また、来月も開催されるそうで、そこにはぜひ参加させていただきたいという意見も殺到しているということである。林業専門の猪野委員あたりから見ると、林業の作業は非常に危険を伴うというお話があったが、やはり広く一般の方々にも知っていただいて、ある意味で手助けさせていただけるようなシステム化が出来れば、一つのいい方法になると思う。今深刻な問題がたくさんあるようだが、その辺の一分野を担っていけるようなシステムづくりができて、且つ、森が今まで以上に整備されるようなシステムが可能であればそれが良いかなと思う。

- ・蓮沼の海岸沿いに住んでいる関係で思うことだが、現在山武市にお手伝いが可能な人がいるというのに、海側の人々と旧山武町の人々の状況があまりわかっていないというのが一つ問題である。そうした交流めいたものも一つの方法なのではないかと思う。
- ・これは林業や漁業に関わらず、先ほど行木委員がおっしゃった山武の田園地帯の休耕田についてもそうだが、自分の家でも一部荒れてしまっているところがあった。しかし今では近くの農家の方に入ってもらっている関係で、緩和されてきている。このように賛同者を広く集めることも必要なのだと思う。山武市の少ない人口の中では、外部からそのような人たちを呼び込むシステムがあってもいいのではないか。それによって山武市は今予定されている景観が保たれていくのではないか。
- ・現状の自然環境を残していくのではなく、元に戻さなくてはいけないというのは確かである。しかしそれは一日にして出来るものではなく、時間をかけてしっかりと方向性を持っていかないとできない。そういう方向性も考えていく必要がある。なので、この山武市に、観光客でもどういった方達でもいいので、農作業や林業の手助けになるような人を呼び込むシステムというのを考えていく必要がある。
- ・子ども達の教育という面で、山武杉の良さを知っていただくための教室があれば良いと思う。小さい子どものうちから、土地柄を育むことによって、この山武杉の良さというのがわかり、将来家を建てるときになったら見直せるのではないかと思う。
- ・旧松尾町の猿尾地区で夜にお祭りがあった。若い有志が新住民との交流をするのにどうしたらいいかという事で、「つくしの会」を作った。「つくしの会」というのは、その地区の草刈りやごみ処理、あるいは昔ながらの拍子



	<p>木を叩きながらの夜警をやっている。そういったことで地域の交流会を始め、先に述べたお祭りも今年で7回目である。地区の行事を、盛り上げてやっている。地区の絆づくりをしたことによって、地区の安全や、環境整備をされているという事で非常に感心した。という事で、出来れば再生できるものは再生していきたいという気持ちでいっぱいであるが、今ある自然環境を維持管理していくことが一番大切なのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浪切不動院の景観は電線が多少邪魔ではあるが、緑のある中に赤い不動院が見えて非常にいい。ここに少しでも人を呼ぶという事を考えると駐車場が欲しい。外から来ていただける方のために、そういった環境整備が大事ではないかなと思った。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い景観を育てていくうえで、メンテナンスをしていくためのシステムづくりとして、山武市の中でも山と海の方々との交流することによってそれぞれの支え合いがより強くなっていくのではないかといった糸口が、お話の中で見えてきたかと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を伺っていて、感じたのは景観そのものよりも、昔見た風景や遊びに関するものが多く、心象的な景観についての意見が出ていたように思う。また、自然についての問題が挙げられているが、田んぼも毎日のように手入れがされているわけである。農業に関して言えば、商売をしていない時期は次のための苗を育てているという事で、年間を通して農業をやっていることになる。しかし山に関して言えばそうはいかず、少なくとも30年以上かかってしまう。そういう中で経済活動としてのサイクルが違うことが一番の問題かもしれないと思いながら、それにしても山がきちんとまわっていないのが、今、山に手が入ってないということに繋がっているのではないかなと思っている。ここでは「まちづくりをどうしようか」と言っている様に聞こえてきて、それはすごく面白いなと思いながら、それをこれから山武市の景観としてどういう風にしていくのかと考えていた。</li> <li>・景観というのは今見える風景がどうというわけではなく、実際に自然の景観自体は手が入り変わってきている。つまり生産という動きの中でいろんな風景が出来上がってきているなあと思うと風景も生きているのだと思う。そういう意味では、先ほど出てきたメンテナンスの問題、あるいは10年後の未来に輝くかどうか。こうした視点から景観というのを捉えていったときに、どういうキーワードを見つけ出すことができるのかと思う。例えばここで、こういう景観にしましょうと言ったときに、実際それを守り育ててくれるのは、子どもたちの世代である。そう思うと、今皆さんはいろんな思いがあると思うが一方で自分たちの子どもや孫にとってどういう景観を残したいかという視点から、もう一度いろいろ考えてみる必要があると感じた。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんキーワードが出たと思う。これらをキャッチフレーズとしてまとめるのをこの場でやるのは難しそうなので、今日出たキーワードを全部使うのは無理であるが、自然、歴史、暮らしの場・まちなみ、人の営みなどの中に整理して、それぞれのところで目標や方針が立てられ、それを踏ま</li> </ul>

	えて山武市全体としてどうしていくかというたたき台の作成は事務局の方へ任せて、次回までの宿題とする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの歴史項目の中で「古木」や「その他の史跡」などとあるが、海岸に沿ってお寺や神社がたくさんあるのでそれをまとめて「たくさんあります」ではなく、どういう神社があってあるいはお寺がいくつあって、というデータはあるのか。神社にはだいたい由来があると思うし、市の教育委員会などで全部整理されているのか。七福神などの有名なところは言えるが、ひょっとしたら、もう誰もおらず、荒れているものとか社しかないお宮さんもあるかもしれない。しかしそういうものもひとつの風景としたい。できればそういうものの具体的なデータがあるといいと思った。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考資料1の「歴史」のところで文化財は拾ってあるが、文化財になっていないような、神社仏閣なども落としてみると暮らしと結びついた歴史というの見える気がする。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>九十九里海岸など美しいと言われるものを、我々は持っているが、子どもの話にしても次の世代が守っていくには、住んでいる誇りがないと話にならない。誇りを持てるような大人の姿を見せなくてはいけないと思う。</li> <li>九十九里の海の家が9月の初めに撤去され、竹垣が出来てしまっている。今までも相当不満だったが、成東海岸にまっすぐアプローチしていくと、伊藤左千夫の歌碑が道路の延長線上にあるが、そこに至る道が一旦公衆トイレの方に行ってからではないと行けないようになっている。海の家がなくなったら、直接砂浜でいいはずなのだが、海の家の手前に竹の垣根をずっと作っており、一か所ほど端の方に人ひとり歩けるようなところがある。伊藤左千夫の歌碑に至るまでの柵に紐が取り付けられ、くぐっていかないと行けないようになっているが、何を考えているのかと思う。これでは我々が九十九里浜を誇りに思うなんて言えない。なにが自分たちの誇りなのか、なにを大事にするべきなのかという自覚をしっかりと持って行動しなくてはならない。</li> <li>裸足で歩ける海岸じゃないとだめだ。50年前の海岸には何もなかった。そこまではさすがに戻らないと思うが、風が吹けば石ころだらけは勘弁してほしい。大切なものが本当に見えていないというのが印象として思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>その柵は個人が設置しているものなのか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>分からないが、あれを放置してはいけないと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理について、確認しておく必要がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>御宿の海を例にとったら、ここに本当に海の家があったのかというほどきれいに片づけてあり、釘一つここに落としてはいけないという意識がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前、委員の話の中で御宿の海岸が素晴らしいという話が印象に残っているので、そのシステムを何でできないのだろうかと思っている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛情の違いであると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局にお願いであるが、今の話については庁内の方で情報を流してもらいたいと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここで出たことは、必ず担当に情報を出して、できれば結果を教えていた</li> </ul>

	だけたら良い。市が目星光らせていないと駄目である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほど休耕田の話があったが、広島で例があつてご紹介したいと思う。高齢化が進み、自動車学校の先生たちの仕事がなくなり、畑を借りて農作業をしたら、うまくいった話がある。自然の中で愛情をかける分だけ良いものが育っていくのが楽しく、仕事を辞めて農作業をしたいという人も出てきた。それから、それを見て休耕田を所有している人がうちもやってほしいという事で、だんだん増えているということである。</li> <li>・例えば商工会議所の企業の方で、週に一回でもお手伝いをするという方が出てくると良いと思う。外からの人は嫌になったらすぐやめしてしまうと思うので、地元でカバーできる仕組みにしておいた方が良いと思った。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業は社会貢献や社員研修を兼ねて、結構草刈りなどに出てきてくれる。市原の里山の保全をしている団体があつて、大変企業に助けられている。あとは自分達の地域をしっかり見ることが大事であり、四季折々の行事を復活させるなどがあれば自分たちの場所をもっと良く見るようになると思うので、組み合わせてやっていけたら良い。それでは事務局への宿題という事で、今日出たキーワードを整理していただく。次回あたりは景観計画というのはこのようにまとまっていくというイメージが解るような資料があるとさらに議論が進むかと思うので、目標・方針のたたき台を反映させた状態でまとめていただければと思う。</li> </ul>

## 【議事内容】

### (3) 成東駅南側周辺地区街並み景観について

名前	意見内容
委員長	・成東駅南側周辺地区での計画が検討されており、ゆくゆくは景観計画を受けた整備地区に踏み込んでいけたら良いと考えているので、あまり方向が違ってしまってもいけないのでここでご意見をいただきたいという事である。
委員	・電柱は地中化されるのか。
事務局	・駅前広場と駅前線については、電柱の地中化を考えている。
委員長	・浪切不動院への眺望に入ってくる電柱は どのようになるのか。
事務局	・駅前については何とか手が出せるが駅前から離れると、今回の駅前の整備の中ではなかなか手が出せないというのが正直なところである。
委員長	・併せてやってしまうというわけにはいかないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成東駅前まちづくり協議会に出席しているので発言させていただくと、対象エリアについて、この策定委員会との相互が違わないようにしたいところであり、逆に協議会に投げかけて決めていただくという事もあると思うので、そこをうまくリンクさせていければと思う。</li> <li>・今協議会では道路や広場に名前を付けないかという案が出た。そういうのは街並みや、地域に対する思いが出るし、自分に近いものになるのではないかという意見が出ている。入口に「金兵衛」というラーメン屋があるので、我々が勝手に「金兵衛通り」と呼んでいる既存の道がある。それに勢いがついて、まだ名前のついていない通りや用水路なども考えていきたいというところである。また、協議会としては、ここから始まる様々なアクティビティの及</li> </ul>

	ぶ範囲、例えば観光客が来るところは「是非こうしてください」という意見書をつけて、最終的にまとめて出したいと考えているところである。
委員	・駅前から126号線にまっすぐ行く道路ができるのか。
委員	・図面にあるように126号線にそのままの幅員でつながる。
委員	・バスも通るのか。
委員	・通る。今の入口だとバスが曲がりきれないため、それを通れるようにするのが最大の計画である。加えて朝夕の通勤ラッシュの送迎の車への対策がこの計画の理由である。
委員	・観光案内所はあのままか。
委員	・観光案内所に関しては、今の状態では狭すぎるので、協議会の方でこれからいろいろ検討していきたいと思っている。
委員	・城西国際大学のインフォメーションはどこに行ってしまうのか。子どもたちのイベントをやっているのどこにしてもらおうかと思った。
委員	・電柱の話についてだが、東金市はバイパス全部に電柱をなくしている。山武市も浪切不動院への景観くらいはどうかと思う。今回の計画外ということであるが、こちらで出来ることであれば提言くらいのことはさせていただきたいという気がした。
委員長	・せっかく駅前が綺麗になるのだから関連事業として、やれたらいいのだが。
委員	・セットバックの話について、今、旧商店街で自発的にセットバックしている店があるが、個人的には問題だと思う。商店など通りいっぱいまでないと、街の賑わいというのが逆に壊れてしまうように思う。旧東金通りを見て思うのは、蔵造りの軒先が道路いっぱいまであって、道とお店の関係というのが非常によくできているので、あのような連続性というのが賑わいを生むと思う。いたずらに下げるというものではなく、二階部分はそのままで一階部分に歩ける通路を作るとかが良いと思う。
委員	・実はセットバックの始まりは、歩道が無くて狭いという事であった。特に「金兵衛通り」は、歩道が無くて交通が危ないという意見であった。 ・規則を作るのは本当に怖いことで、一番大事だと思うのは運営だと思う。運営をしやすいようなルール作りをするのが良いと思う。国交省で聞いた話だが、ルールというのは、何のためにあるのかというと、良いものを作るのではなく、悪意を排除するためにあるという事である。例として、箱根の美術館は基礎が丸く、十文字に建物が建っている。基礎が出来たところで国立公園内は丸い建物は駄目、平らな屋根は駄目、赤い色は駄目というように論拠はないが駄目なことばかりになっている。環境にそぐわないという事であると思うが、それが未だに残っており、こういうことが一番怖いと思う。風景というのはやはり生き物だと思うので、博物館の白線のように固めないような、いい法律が出来ないかと思う。
委員長	・ご指摘のとおりである。昔はこういったルールは「作法」であった。本当は「作法」くらいでいければ良い。最近の景観計画では色彩については必ず、この範囲にしないという制限が出てくるが、アクセントカラーを使うことで、その街並みが生き生きしてくることもあるので、一概に「この枠内の色を使ってください」とも言えなくなるのではないかと思う。
委員	・先ほどの浪切不動院の写真がよい例で、あの赤い色はおそらく外れている。
委員長	・浪切不動院等の神社仏閣の場合は特別だと思ってくれるからいい。駅前で自分は特別だとみんながやり始めたらどうしようもない。
委員	・統一感を出すという意味で、山武杉を何%か使うこととかはできないのか。

委員	・色々検討するテーマになっている。杉を使った場合、色や大きさが変わってくるなど様々な問題が出てくる。成東駅に限らず松尾、日向についても、駅は山武市の顔となるので、できれば杉を使いたいが、何よりも情報発信できるような場にして、それぞれの場所の良さがどこかで光るようなガイドラインができれば良いと思っている。
委員長	・観光案内所を山武杉で作るとかが良いと思う。
委員	・観光案内所と一緒に「JAの緑の風」を一緒にすることは難しいのか。
委員	・できればそういった話も交渉していきたいと思っている。
委員	・観光案内所と「JAの緑の風」が一緒になると、観光的にも良いと思う。
委員	・策定委員会も、協議会もそうであるが、委員の話だけで終わるのではなく、いろいろな話を広めていってほしいと思う。漁師の方が山に植樹したという活動もあるので、そういったことのように、みんなが考えて「ではやろう！」という形が一番いいと思う。駅前話を協議会で決めようという気持ちはなく、むしろ皆さんと一緒にやっていけたらいいと思っている。そしてその延長上で活動に繋がったらなお良いと思う。
委員	・成東駅が綺麗になった時に、人がいっぱい来るようであれば、駅ビルのように集合テナント的なものを駅の周りに置ければ、これから商売したいと思っている人たちにも、山武を訪れる人たちにも良いと思う。「緑の風」については近くにあるので難しいのかと自分は思う。
委員	・「JAの緑の風」は個人的に農家の人たちが野菜を持って行ってやっていることである。
委員	・「緑の風」という名前ではなくて、それこそ朝市みたいな形でやれたらいいのではないか。
委員	・その朝市などでも観光案内所と一緒になっていれば、来たお客さんが、案内だけではなく、お土産も買えて良いと思うので、そのような店があれば良いと思う。
委員長	・「緑の風」が駅前に来ればいいという事である。ここで議論したことはまちづくり協議会へ持って帰っていただけたらと思う。ここで大筋として異議はなかった。細かく決めるというのは、規制を厳しくするという事ではなく、細かい運用システムを見据えたルールを作るという事だと思っているのでよろしく願いたい。時間をだいぶ超過したが以上である。

－以上－